

# 第16回全日本ユース(U-16)水球選手権大会－桃太郎カップ－【戦評】

会場：倉敷市屋内水泳センター 【2023/12/26】

## 男子準決勝2

群馬県選抜

11

2	－	0
2	－	3
4	－	1
3	－	1

5

石川県選抜

PSO

宇田川佑里子

審判：

坂井 奎太

## この試合のプレー集計

群馬県選抜	23	SH数	25	石川県選抜
	7	速攻数	1	
	11	ST・SB	10	
	7	SH・P誘発アシスト	8	
	55%	GK阻止率	21%	
11	EX反則数	5		

ST・SB：ボール奪取・SH阻止

## 【試合の流れ】

前回大会も準決勝で対戦した両チーム。昨年は石川が逆転勝ちしたが、群馬も準々決勝では本来の調子を取り戻してきただけに接戦が予想される。

### 【1P】

調子に戻した群馬センター②前田がペナルティを誘発して④齋藤が決めて群馬が先制。さらに右サイドを突いた④齋藤がチャンスを作り、シュートのこぼれ球を⑩深澤が決めて群馬がリードを広げる。再三の石川の退水攻撃も、群馬ディフェンスが全員で守ってゴールを割らせない展開が続く。攻撃パターンでは石川が優勢だが、ディフェンスへの集中力で群馬が上回った第1ピリオド(群馬2-0石川)。

### 【2P】

群馬がセンターボールからの攻撃で②前田がミドルSHを決めて3点目。しかし石川センター⑥水浦が連続得点で差を詰めるが、対する群馬も石川のシュートから②前田が中央突破のカウンター攻撃で4点目をマーク。群馬はペナルティSHをGK①富岡がセーブしてボルテージも最高潮に。しかし、その後の攻撃はやや鋭さを欠き、逆に石川が退水を誘発。そこで⑩前田が決めて1点差に迫る。群馬4-3石川と期待にたがわぬ接戦となった。

群馬は後半、エクスクルージョンの多さが響く可能性があるだけに早めに点差を開きたいところ。対する石川は前回もこうした前半の戦いから後半勝負で勝った経験があるだけに落ち着いてプレーできるかどうか。

### 【3P】

群馬はダブルセンターで攻撃を仕掛けるが、石川に完全にブロックされて攻め手がない状態、そこを石川が突いて、⑤中村が決めて同点に。しかしすぐさまエンジンがかかってきた②前田が決めて再び群馬リード。石川の退水攻撃を防いだ群馬は、右サイドからセンター②前田に。そこでペナルティを誘発して③椎名が決め、さらに石川から退水を奪って⑤深澤が決めて点差を広げた。⑤深澤はその後の石川パスミスからの右サイド攻撃でも加点し、一気に群馬がリードを奪った。群馬8-4石川で第3ピリオド終了。

### 【4P】

センターボールからの群馬の攻撃で、センターで退水を奪って③椎名が決めて5点差。さらに、カウンター攻撃からの流れでセンター②前田にマークが集まったタイミングで左サイド⑤深澤から右45°の④齋藤にパス。石川GKが大きく振られたのを見逃さずに④齋藤が決めて6点差。石川も懸命に攻めるが群馬の堅いディフェンスを突破できない展開が続く。ピリオド後半、群馬のオーバータイムから⑩前田が右サイドから決めて5点差。石川シュートを守って④齋藤からセンター②前田への黄金コンビのパスで再び6点差。石川はタイムアウトで流れを変えようとするが、そのままタイムアップ。群馬11-5石川で、群馬が昨年のリベンジを果たして決勝進出を決めた。

群馬の勝因は何とんでも全員で守った集中力。対する石川は、群馬のセンター②前田にどうしてもダブルマークを余儀なくされ、その分、攻撃に人数を割くことができずに遠目からのシュートに終始したことで群馬側のディフェンスを突破できなかった。ダブルマークによって群馬の司令塔④齋藤が自由に動けたのも群馬には味方した。昨年の石川は、この④齋藤対策で逆転勝ちしたが、今年はその④齋藤にリベンジされた形となった。こうした点も、ベンチワークの重要性を物語るものがあり、ハイレベルの試合の駆け引きは水球の醍醐味だ。両チームの健闘、冷静に判定した審判団に拍手を送りたい。